

笛吹川東沢釜の沢東俣(個人山行)

(報告) N山

◎山行期日：2018年8月25日(土)～26日(日)

◎メンバー：ML_N山、Ma-buさん(N山友人)

◆1DAY

西沢溪谷駐車場▶鶏冠沢出合▶ 7:43▶8:25

▶山ノ神下入溪点▶9:40

▶魚留滝▶12:11

▶両門滝▶13:24

▶野営地▶13:24

◆2DAY

野営地▶5:52▶7:43

▶木賊山▶10:02

▶西沢溪谷駐車場▶15:00

※休憩は頻繁、巻きの前に5分から10分、下山は一時間おきに休憩した。

遡行図



＜野営地について＞

野営地は多くまた焚き木も豊富、前日の雨で湿ってはいたが、問題にはならない程度。刺すような虫はいなかった、夜の気温も低くなくシュラフカバーで過ごせた。

＜釣り＞

魚はいない沢

岩手から帰ってきて、ポーと過ごしていたが、沢を始めた友人 Ma-bu さんから” 休み取れました、25、26、27 の3日間 “と、「あれ～そういえば、そんなこと話したなあ」と思い出し、” 行きたい沢はどこですか “と聞くと” ナルミズか笛吹川の西俣 “、うーん遠くはちょっと厳しい（運転が嫌いなので）から、近くてまだ行ったことのない笛吹川東沢釜の沢西俣の計画をたてた。

西沢溪谷の駐車場で準備していると、Ma-bu さんの荷物が大きい、事前に 20kg 以下ねって言ったのだが、、23kg はありそう、今回は難しい場所はないので構わないが、おそらくバテてしまうだろうと思った。

吊り橋を超えて渡河するまえに沢装備をつけて、助六寿司を Ma-bu さんがくれたので、少しでも荷物を軽くさせるため半分食べる、渡河してホラの貝ゴルジュまでは側道を歩く、沢を覗くと水量が多い、こりゃぁホラの貝はさぞかし大変だろうとおもったら、ホラの貝ゴルジュの入り口でロープを片付けているパーティがいる、話を聴くと突破できなかったようだ。

「これじゃあしょうがないよね」という会話を交わす。ここからしばらく歩いて入渓点に、確か山の神の祠があったはずだが見落としてしまった。Ma-bu さんは見たようで「え？あったよ」と、ちょっと残念。

入渓してしばらくは徒渉を繰り返すとまずは乙女の滝「どの辺が乙女なんだろうね」と自分、「あの辺かなあ」と Ma-bu さん。そして東のナメ沢高いところからくの字に水が流れていて、素晴らしい滝、Ma-bu さんは「おお！これを見たかった！」と大喜びだが、ここで渋滞が発生、10 人くらい徒渉待ち「なんで？」とおもったが、初心者らしく膝下の徒渉が難しいようだ、のんびり待つ気もないので深場を無理やり徒渉して追い越した。

西のナメ沢をみて魚留滝へ向かう途中で『岩遊』の豊野さんパーティをみかける、女性二人を引き連れていたの、多分ガイドの仕事だろう。魚留滝は左から巻く、下部がちょっと難しそうだったのでお助けを出した、巻きは短くすぐに落ち口に出た、この先が千畳の滝のはずなので Ma-bu さんに先を譲る。

前を歩く Ma-bu さんが「おおおおおお！」と驚嘆する声が聞こえる。

あまりにも綺麗なので、座って昼食をとることにした、「やっぱりナメはいいよな～自分の腹黒さが少しは清められるよ」と「え？N 山さん腹黒いの？」 「コールタールのようにネチネチ黒いよ」

千畳のナメを堪能したのであとは両門滝、そろそろ Ma-bu さんお疲れモード、彼はアルプスの長期縦走もこなすが、慣れない沢はまだきついうだ、ちょっと危なそうなところは、お助けを出したり手首を掴んだりして登らせるが、基礎はできている人なので、トラバースなどは問題なく歩いてもらえるので、こちらとしては楽だ。



千畳の滝

両門滝についた、今度は自分が感嘆の声が出る、「おおお！いいねえこれ見たかったんよ」ここでもしばらく休憩、あとは野営地を探すだけなので、急がない急がない。両門滝を上がると何パーティかすでにタープやらツェルトを張っていた。我々は少し上流にあがって荷を下ろす、薪集めは Ma-bu さんにまかせて、タープを張ったりカマドをつくったりと細かな用意をする、この川には魚がないので、今晚は具沢山の豚汁と五平餅を作ることにした。出来上がるまでの間は、メザシとソーセージを焼いて Ma-bu さん初めて沢泊の祝宴をおこない、夜は更けていく。



両門滝



豚汁と五平餅

朝起きると、Ma-bu さんから悲しいお知らせを聴く、焚き火からは離れたところにアプローチシューズを置いていたが、火が苔を伝って靴に燃え移ったとのこと、綺麗に燃え尽きたらしく跡形もない、これは悲しいがおもわず笑ってしまった。気を取り直して、空が白んだころ出発した、踏み跡を探しながらゴーロと倒木の沢筋をあるくと 100m の数段の滝、左から草付きであがるとミスシ沢の分岐についた、巻き上がるとナメ沢のはずだが、残念ながら落石が多くて埋まっていた。最後滝がみえてきた、出来たら直登したほうが良いと思ったが Ma-bu さんの足がそろそろ限界になってきたので巻くことに、上がる踏み跡をさがしたが、木賊山に向かってしまった、戻るのも面倒なのでこのまま木賊山に向かう、Ma-bu さんはフェルトソールのため、チェーンアイゼンを貸した、最初は遠慮したが、装着するとグリップ力はかなり違うので感激したようだ。ところどころ踏み跡があったり石楠花の藪漕ぎがあったりしたが、木賊山に到着できた。この詰めでこんどは自分に悲しいことが、クロックスもどきのサンダルをザックにビナ付けしていたが、片方無くしてしまった。藪漕ぎをしているうちに取れたのだろう。

下降路は徳ちゃん新道を利用した、距離はさほどでもないが、休憩をいれながらなので、それなりにかかってしまった、沢自体はよかったが、下りがめんどろだなあと下山してから感じた。